

第25回芥川トコロジスト調査隊報告（9月10日）

西之川原の田んぼ周りの生き物を観察しました。観察の後、標本作製しました。

日時：令和5年9月10日（日）10時～12時

場所：西之川原

参加者：18名

講師：あくあびあ芥川小柿事務局長、高田主任学芸員

観察種：合計45種

【野草】 クリ、アスパラガス、アオツツラフジ（花、実、種）、テイカカズラ（実）、コミカンソウ、
チョウジタデ、タカサブロウ、ツユクサ、エビモ（花）、ヘラオオバコ、スズメノトウガラシ、
タケトアゼナ、アメリカキカシグサ、ホソバヒメミソハギ、ホシクサ、ミズマツバ、ウリカワ、
コナギ、トキワハゼ、クログワイ、イヌホタルイ、ヒナガヤツリ、テンツキ、ヒデリコ、
ザクロソウ、キカシグサ、エノキグサ、イヌガラシ、エノキ（実）、ムクノキ（実）、
ヤブラン、クワイモ（32種）

【野草ほか】（13種）

【昆虫】 ハラビロカマキリ、アブラムシ、ハグロトンボ、アオイトトンボ、ギンヤンマ、シオカラトンボ

【鳥類】 キジバト（土手で寝転がって羽を干していた）、モズ

【爬虫類】 クサガメ（なぜか田んぼ横の水路にいました）

【両生類】 ウシガエル（オタマジャクシが正恩寺橋の下、上流側にいっぱい）

【魚類】 アユ（そこかしかに）

【貝類】 カワニナ、ジャンボタニシ

今回で5回目の田んぼの生き物調査。参加メンバーも慣れたコースで何度も見ている生き物ですが、忘れてることが多いです。それでもよくて、名前は忘れていても花の特徴を言えるようになれば何の仲間が分かるので図鑑を調べることができます。

例えばスズメノトウガラシとタケトアゼナ、フルネームで覚えるのは難しいですが、アゼナだけ覚えておけば、「アゼナの仲間」で検索すると出てきます。次は、スズメノトウガラシはタケトアゼナに比べて花がひしゃげているとか、またはチョウジタデは黄色い花が小さくヒレタゴボウはそれと比べて大きいとか主な違いを覚えておきます。

違いが分かる（名前が分かる）と毎年見ている花でも楽しくなります。朝ドラらんまん的主人公「牧野万太郎（神木隆之介）」にはなれませんが、「すえちゃん（浜辺美波）」にはなれるかもです。

正恩寺橋（あくあびあ前の橋）を渡ったところの田んぼの周り
テイカカズラ：細長い袋状の2本の果実



アオツツラフジ：実はぶどうのようですが美味しくありません。種はアンモナイトのよう



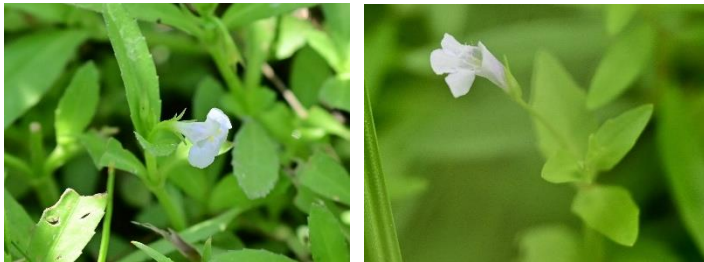
チョウジタデ、コミカンソウ、ツユクサ、タカサブロウ（左から順に）



スズメノトウガラシ、タケトアゼナ（左から順に）

スズメノトウガラシの花はひしゃげている（ごめんなさい）

タケトアゼナの葉は不明瞭な鋸歯があり、アゼナは鋸歯がなくこの辺りでなかなか見つからない



エビモ（花）、エビモ（葉茎）、アメリカキカシグサ、トキワハゼ

アメリカキカシグサに似たホソバヒメミソハギは花が紫色で葉がもっと細く長く基部の耳が張り出す。ヒメミソハギの花は極小



ホシクサ、ミズマツバ、ウリカワ

ホシクサの名前は茎頭部に咲く小さな白い花が夜空に広がる星に例えたようですが、一つの花をよくよく観察すると6つの雄しべが星のように開いているようにも見えます



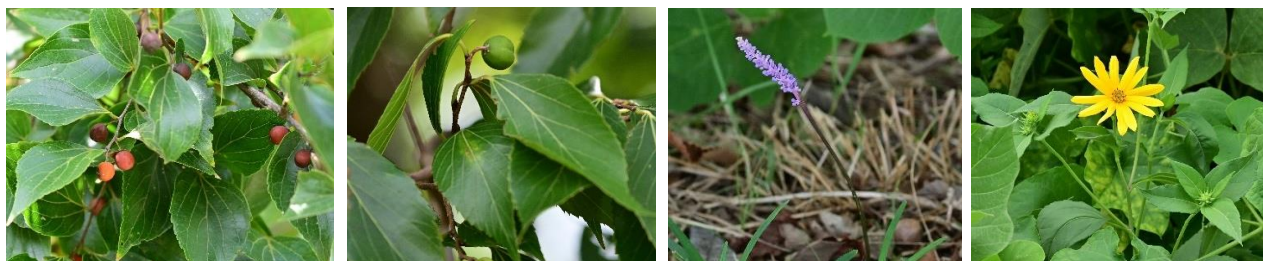
エノキグサ、イヌガラシ、田んぼの観察風景



ススキの葉を器用に飛ばして遊ぶ小柿さん、右は飛んだ瞬間。分かりますか？
どうして飛ばすかはまたの機会に、、、



エノキ（実）、ムクノキ（実）、ヤブラン、キクイモ
芥川堤防上の樹木の実でもう少し熟せば食べれます。キクイモは川原に満開です。



ハラビロカマキリ、ハグロトンボ、アオイトトンボ



クサガメ（を観察する子どもたち）、アユ
数年前に摂津峡までの落差に魚みちが出来てからアユが遡上するようになりましたが今年はとりわけ多くの個体が残っています。そろそろ産卵の時期です。



○ 草花の標本採取・作成

(1) 標本採取のポイント

基本、根っこから採る。大きいものは折りたたむ。採ったものをビニール袋などに入れてしおれないまま持って帰る。またはその場で押し花にする。その方法は百均のワヤーネット2つを結束しその間に新聞紙を入れておいて新聞紙の中に採った植物を挟みこむ、または小さいものならマンガ雑誌のざらざら紙の間に挟んで持って帰る。

(2) 標本作成（布団乾燥機を活用）のこつ

用意するもの、半分にカットし折りたたんだ新聞紙、同じサイズの段ボール片、板。新聞紙に標本を折りたたんで挟む。入らない場合は切るのもあり。葉は表を見せながらも1枚は裏が見えるようにする。厚さがある場合は薄切りスポンジを用意して挟む。



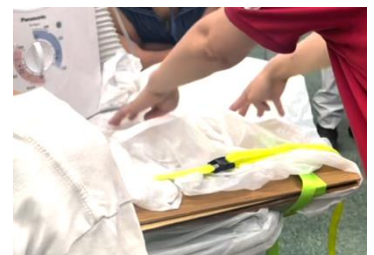
新聞紙は左開きになるように置く。乾燥して台紙に貼る際に右下に名前等のプレートを書くから、開いて見る時に便利（下左2つの写真）。新聞紙には、採取年月日、場所・環境、採取した人の名前、植物の名前（分かれば）などをマジックで書いておく（下右写真）



次に標本を新聞紙、段ボール、板でミルフィーユのように挟みしっかりとベルトで締め付ける。複数あるときは、新聞紙、段ボール、新聞紙、段ボール、、、最後に板という感じ。



最後に布団乾燥機につないだ大きなビニール袋の中にベルトで括った塊を入れて3時間ほど乾燥させる。その際、段ボール片の向きが肝心で穴が開いている方向に乾燥機の空気が通るように配置する。そうすることで熱風がその穴を通りぬけ、上下の新聞紙に挟まれた野草が乾燥しやすくなる。乾燥した後、標本用紙にテープで張り付ければ完成。



新聞紙だけで押しでも標本にはなるが何度も新聞紙を取り換える必要があるし乾燥機の方が短時間で乾燥するので色も残りやすい。

以上、簡単に説明してもらったがほかにも技や注意点があり、とても勉強になった。

（文責：芥川トコロジスト調査隊事務局 川上隆）

